

米に関するマンスリーレポート

(平成23年4月28日公表)

農林水産省

【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的とする。

【利用上の注意】

1. 「米に関するマンスリーレポート」は、今回（平成23年4月28日）より新規に公表するレポートであり、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得る。
2. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映している。
3. 本資料に関する問い合わせ先

総合食料局食糧部計画課
担当者：山田、若杉
代表：03-3502-8111（内線4200）
ダイヤルイン：03-3591-7889
FAX：03-3508-2467

目 次

1. 集出荷段階の動向	
(1) 相対取引価格・数量	1
① 相対取引価格（産地銘柄別、平成23年3月）	
② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成22年産米）	
③ 相対取引価格（年産別）	
④ 相対取引数量（累積数量、産地銘柄別、平成23年3月）	
(2) 民間在庫（出荷段階）の推移	4
(3) 相対取引基準価格（全農）の推移	5
(4) 産地銘柄別概算金の設定状況	6
① 全農系統の22年産の概算金	
② 全集連系統の22年産の概算金	
(5) （株）加工用米取引センターの取引結果	6
2. 卸売段階の動向	
(1) 民間在庫（販売段階）の推移	7
(2) 業者間取引の状況	8
① 随時取引の結果（日本コメ市場）	
② 取引会の結果（日本コメ市場・クリスタルライス）	
3. 小売・消費段階の動向	
(1) 小売価格・消費者物価の推移	9
① 消費者物価指数の推移	
② 小売物価統計の推移	
③ 小売価格の推移（POSデータ）	
(2) 購入数量の推移（家計調査）	10
4. 生産段階の動向	
(1) 国産米の作況・収穫量（平成22年産の水稻の収穫量）	11
(2) 民間在庫（生産段階）の推移	11
(3) 水稻うるち玄米（22年産米）の検査結果	12
(4) 加工用米及び新規需要米の取組状況	12
① 加工用米の集荷実績数量	
② 新規需要米の用途別認定状況	
5. 備蓄米及びMA米の動向	
(1) 国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量	14
① 国内産備蓄米の政府買入数量	
② 国内産備蓄米の売渡数量	
③ 国内産備蓄米の在庫数量	
(2) MA米（一般・SBS）の動向	16
① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	
② 一般輸入米（加工原材料用）の販売状況（平成22年度）	
③ SBS米の販売状況（平成22年度）	

1. 集出荷段階の動向

(1) 相対取引価格・数量

① 相対取引価格（産地銘柄別、平成23年3月）

平成22年産米の相対取引価格(出荷業者)(速報) (平成23年3月)

(単位: 円/玄米60kg)

産地	品種銘柄(地域区分)	23年3月 ①	【参考】			
			23年2月 ②	対前月比 ①/②	22年3月 (21年産) ③	対前年 同期比 ①/③
北海道	きらら397	11,327	-	-	13,453	(84%)
北海道	ななつぼし	11,590	11,549	(100%)	13,399	(86%)
青森	つがるロマン	11,409	10,487	(109%)	13,733	(83%)
青森	まっしぐら	10,830	10,301	(105%)	13,492	(80%)
岩手	ひとめぼれ	12,292	12,070	(102%)	14,619	(84%)
岩手	あきたこまち	12,350	12,091	(102%)	14,019	(88%)
宮城	ひとめぼれ	12,183	11,911	(102%)	14,695	(83%)
宮城	ササニシキ	12,227	12,068	(101%)	14,904	(82%)
秋田	あきたこまち	12,287	12,291	(100%)	14,474	(85%)
山形	はえぬき	11,583	11,709	(99%)	13,956	(83%)
福島	コシヒカリ	12,675	12,248	(103%)	14,153	(90%)
茨城	コシヒカリ	13,190	12,923	(102%)	14,133	(93%)
栃木	コシヒカリ	12,544	12,773	(98%)	14,256	(88%)
千葉	コシヒカリ	12,662	13,218	(96%)	14,384	(88%)
新潟	コシヒカリ	16,363	16,431	(100%)	16,302	(100%)
新潟	コシヒカリ	21,625	21,824	(99%)	22,618	(96%)
新潟	コシヒカリ	16,844	-	-	16,683	(101%)
富山	コシヒカリ	13,837	13,755	(101%)	15,153	(91%)
石川	コシヒカリ	13,483	13,252	(102%)	14,843	(91%)
岐阜	コシヒカリ	13,549	13,745	(99%)	-	-
滋賀	コシヒカリ	12,988	13,193	(98%)	14,379	(90%)
滋賀	キヌヒカリ	11,384	11,837	(96%)	13,785	(83%)
兵庫	コシヒカリ	13,470	13,646	(99%)	-	-
鳥取	ひとめぼれ	12,035	12,162	(99%)	-	-
島根	コシヒカリ	12,938	13,346	(97%)	14,846	(87%)
岡山	アケボノ	11,044	11,239	(98%)	-	-
広島	コシヒカリ	12,686	12,347	(103%)	-	-
山口	コシヒカリ	12,695	12,879	(99%)	-	-
香川	ヒノヒカリ	11,380	11,403	(100%)	-	-
福岡	ヒノヒカリ	12,203	11,896	(103%)	14,183	(86%)
佐賀	夢しずく	11,923	12,015	(99%)	-	-
長崎	ヒノヒカリ	12,604	-	-	-	-
熊本	ヒノヒカリ	12,255	-	-	14,266	(86%)
全銘柄平均価格		12,750	12,687	(100%)	14,508	(88%)

資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注: 1) 相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2) また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

3) 産地品種銘柄は、ア 21年産の公表対象産地品種銘柄が存在した道府県における当該産地品種銘柄、又は、イ ア以外の道府県における21年産の検査数量の最も多かった1品種銘柄、のうち、月1,000トン以上の取引があったものである。

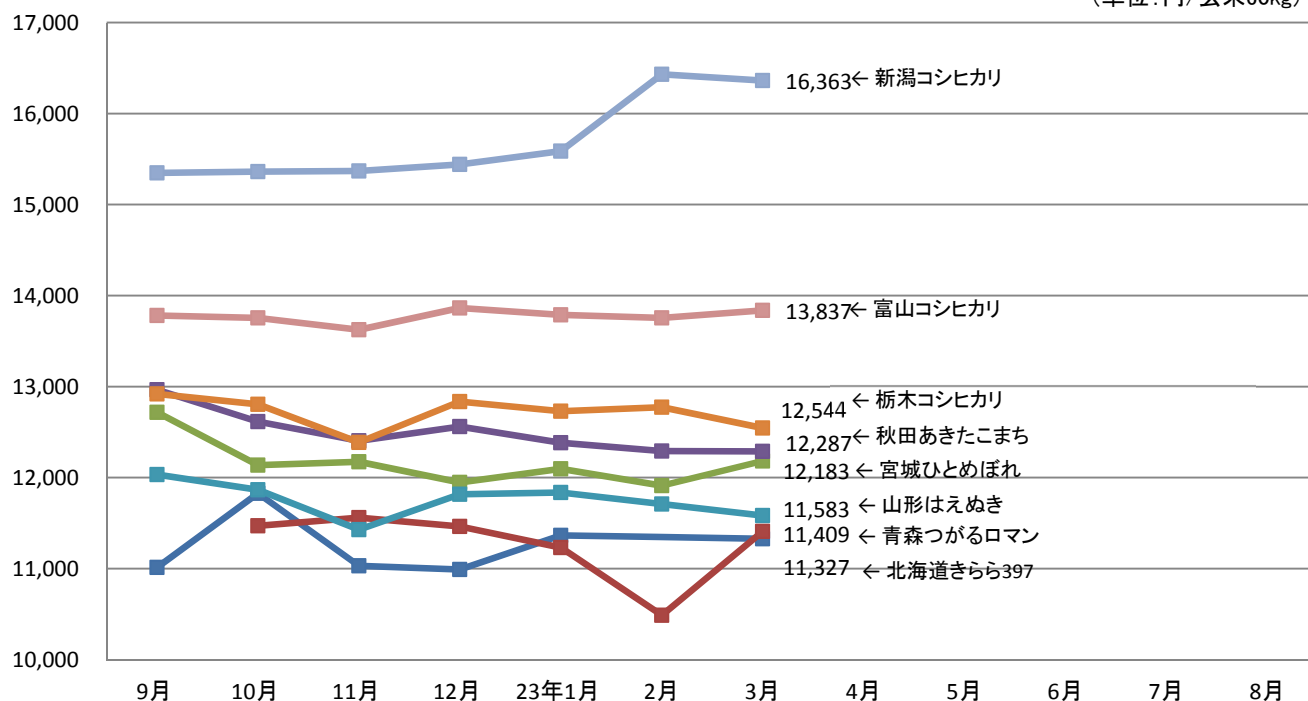
4) 全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5) 22年3月は21年産の価格である。

6) 22年産については速報値である。

② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成22年産米）

（単位：円/玄米60kg）



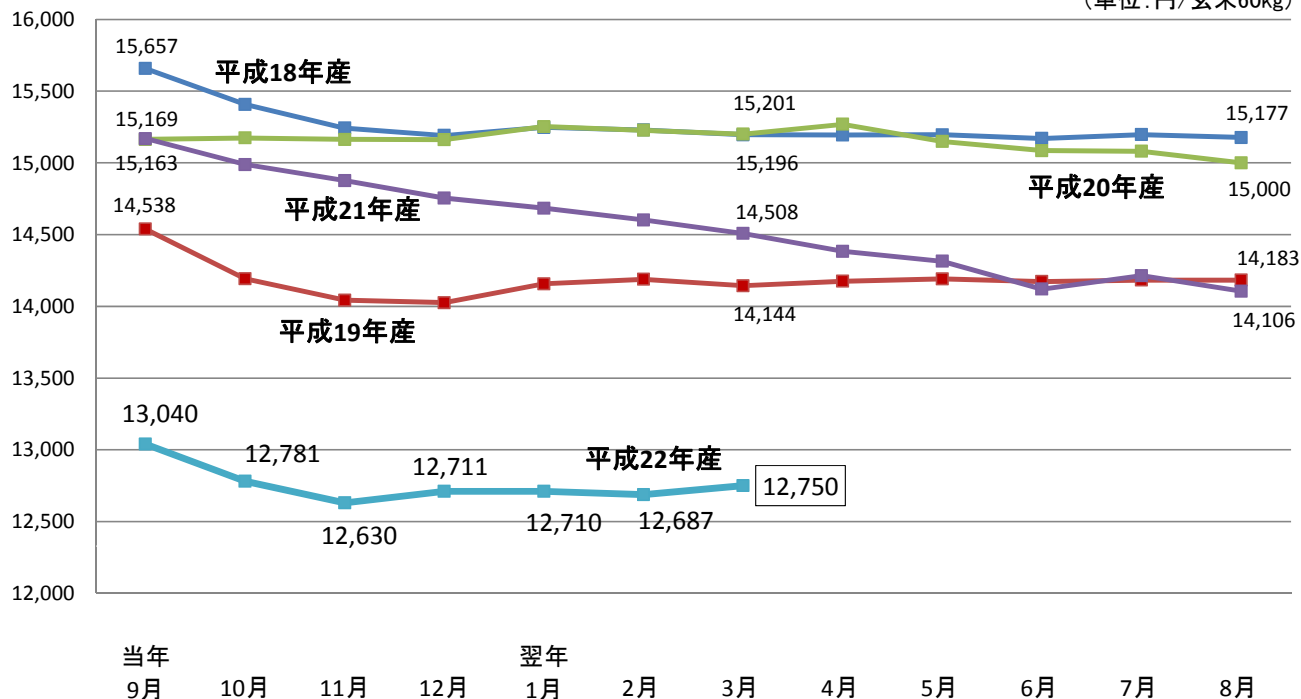
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：相対取引価格に関する留意点については、①の注釈を参照。

注2：月間の取引量が1,000トン未満となった産地銘柄については、当該月の価格は上表に掲載していない。

③ 相対取引価格（年産別）

（単位：円/玄米60kg）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：相対取引価格に関する留意点については、①の注釈を参照。

④ 相対取引数量(累積数量、産地銘柄別、平成23年3月)

平成22年産米の相対取引数量(出荷業者)(速報)
(平成23年3月)

(単位：玄米トン)

産地	品種銘柄 (地域区分)	22年産	(前年比)	(前々年比)	21年産	20年産
		(23年3月まで) ①	①/②	①/③	(22年3月まで) ②	(21年3月まで) ③
北海道	きらら397	98,039	(121%)	(69%)	80,692	143,114
北海道	ななつぼし	104,068	(120%)	(79%)	86,864	132,341
青森	つがるロマン	36,160	(85%)	(48%)	42,692	75,396
青森	まっしぐら	30,431	(80%)	(71%)	38,169	43,024
岩手	ひとめぼれ	91,167	(193%)	(80%)	47,298	114,559
岩手	あきたこまち	24,463	(221%)	(79%)	11,088	31,132
宮城	ひとめぼれ	122,584	(222%)	(75%)	55,314	163,680
宮城	ササニシキ	11,470	(191%)	(78%)	6,021	14,618
秋田	あきたこまち	182,153	(165%)	(76%)	110,103	238,648
山形	はえぬき	95,110	(131%)	(83%)	72,653	114,037
福島	コシヒカリ	30,323	(96%)	(85%)	31,728	35,687
茨城	コシヒカリ	47,039	(139%)	(98%)	33,861	47,842
栃木	コシヒカリ	103,648	(142%)	(98%)	72,904	105,713
千葉	コシヒカリ	43,171	(148%)	(86%)	29,152	50,044
新潟	コシヒカリ	130,462	(155%)	(87%)	84,273	150,128
新潟	コシヒカリ	18,385	(132%)	(82%)	13,925	22,378
新潟	コシヒカリ	15,836	(138%)	(84%)	11,473	18,764
富山	コシヒカリ	92,542	(195%)	(99%)	47,344	93,161
石川	コシヒカリ	28,221	(308%)	(118%)	9,173	23,858
岐阜	コシヒカリ	7,651	(145%)	(74%)	5,288	10,321
滋賀	コシヒカリ	26,285	(160%)	(104%)	16,419	25,362
滋賀	キヌヒカリ	12,888	(115%)	(106%)	11,235	12,214
兵庫	コシヒカリ	14,402	(214%)	(96%)	6,742	14,959
鳥取	ひとめぼれ	6,383	(87%)	(56%)	7,313	11,450
島根	コシヒカリ	19,795	(186%)	(100%)	10,650	19,806
岡山	アケボノ	8,773	(262%)	(152%)	3,344	5,754
広島	コシヒカリ	15,475	(112%)	(73%)	13,764	21,172
山口	コシヒカリ	13,805	(233%)	(85%)	5,915	16,317
香川	ヒノヒカリ	8,255	(116%)	(51%)	7,096	16,137
福岡	ヒノヒカリ	15,532	(118%)	(62%)	13,162	25,140
佐賀	夢しずく	8,247	(81%)	(67%)	10,166	12,291
長崎	ヒノヒカリ	2,758	(154%)	(75%)	1,787	3,699
熊本	ヒノヒカリ	4,139	(63%)	(81%)	6,578	5,083
全銘柄合計契約数量		2,132,313	(139%)	(80%)	1,532,970	2,664,965

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

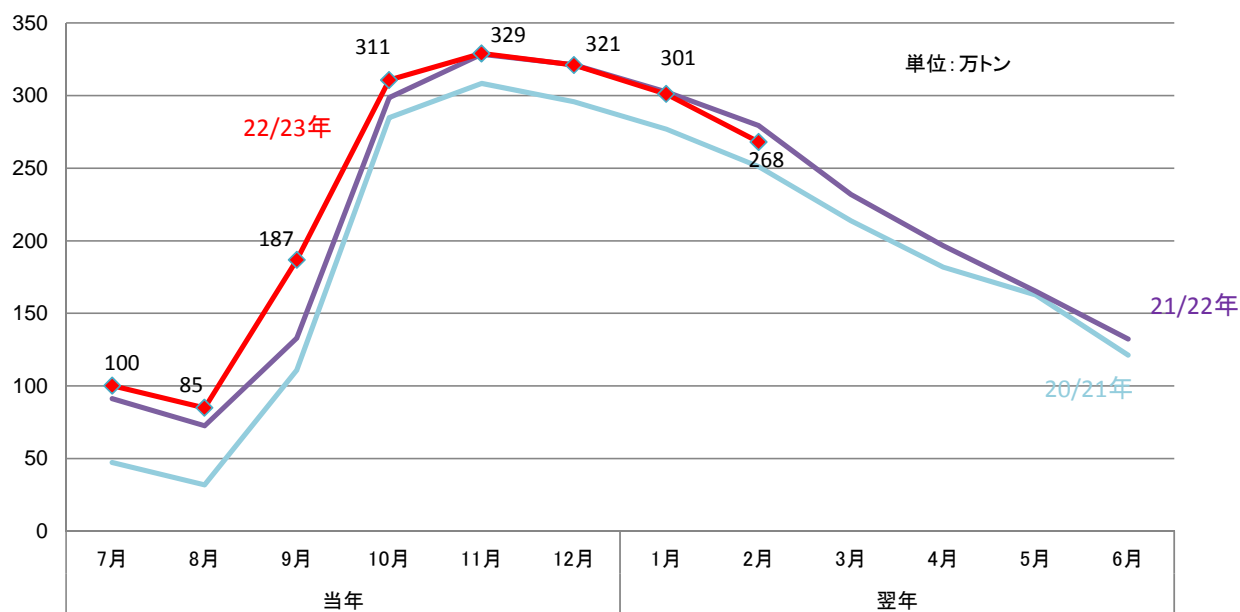
注1：相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)を行った数量である。

なお、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

2：産地品種銘柄は、ア 21年産の公表対象産地品種銘柄が存在した道府県における当該産地品種銘柄、又は、イ ア以外の道府県における21年産の検査数量の最も多かった1品種銘柄、のうち、月1,000トン以上の取引があったものである。

3：全銘柄合計契約数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の契約数量の合計。

(2) 民間在庫（出荷段階）の推移



(単位: 万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121	191
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132	213
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11	+22
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268					
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲2	▲11					

資料: 農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(~20年7月)、農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」(20年8月~)

注1: 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。

注2: 米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。

注3: 期間については、22/23年であれば、22年7月~23年6月である。

注4: 22/23年7月末以降は、速報値である。

(3) 相対取引基準価格（全農）の推移
 （全農公表資料をもとに農林水産省において算出）

平成22年産米 相対取引価格と全農相対取引基準価格

（円/60kg、建値：基準地着、1等、包装代・消費税込み）

期間	相対取引基準価格 （全農）	相対取引価格 （農林水産省）	期間	相対取引基準価格 （全農）	相対取引価格 （農林水産省）
22年 8/16～	14,282 (3)	—	23年 1/11～	13,530 (56)	12,710 (106)
8/23～	14,406 (4)		1/17～	13,535 (56)	
8/30～	14,396 (14)		1/24～	13,570 (56)	
9/6～	14,349 (19)	13,040 (84)	1/31～	13,592 (56)	12,687 (105)
9/13～	14,778 (30)		2/7～	13,592 (56)	
9/21～	14,256 (41)		2/14～	13,597 (56)	
9/27～	13,962 (46)		2/21～	13,595 (56)	
10/4～	13,609 (48)	12,781 (104)	2/28～	13,607 (56)	12,750 (106)
10/12～	13,525 (53)		3/7～	13,607 (56)	
10/18～	13,510 (53)		3/14～	13,607 (56)	
10/25～	13,497 (53)		3/22～	13,607 (56)	
11/1～	13,490 (56)	12,630 (107)	3/28～	13,608 (56)	—
11/8～	13,451 (56)		4/4～	13,608 (56)	
11/15～	13,447 (56)		4/11～	13,613 (56)	
11/22～	13,447 (56)		4/18～	13,613 (56)	
11/29～	13,434 (56)		4/25～	13,613 (56)	
12/6～	13,434 (56)	12,711 (106)			
12/13～	13,432 (56)				
12/20～	13,425 (56)				
12/27～	13,425 (56)				

- 注1：相対取引基準価格（全農）は、全農が公表している全産地品種銘柄の相対取引基準価格を基に、農林水産省において、消費税及び包装代（154円/60kg）を加算し、前年産の検査数量ウエイトを用いて加重平均したもの。
 2：相対取引基準価格（全農）の欄の括弧内の数字は、全農が公表している相対取引基準価格の産地品種銘柄数。
 3：相対取引価格（農林水産省）の欄の括弧内の数字は、農林水産省が公表している相対取引価格の全銘柄平均価格の算出に用いた産地品種銘柄数。

(4) 産地銘柄別概算金の設定状況

① 全農系統の22年産の概算金

(単位: 円/60kg、1等・包装込み)

産地銘柄		22年産概算金 (当初)①	21年産概算金 (当初)②	前年産との差額 ①-②	産地銘柄		22年産概算金 (当初)①	21年産概算金 (当初)②	前年産との差額 ①-②
北海道	きらら397	10,000	11,000	-1,000	新潟	コシヒカリ(一般)	12,300	13,700	-1,400
青森	つがるロマン	8,500	11,400	-2,900	新潟	コシヒカリ(魚沼)	16,500	18,700	-2,200
岩手	ひとめぼれ	8,700	12,300	-3,600	富山	コシヒカリ	11,000	13,000	-2,000
宮城	ひとめぼれ	8,700	12,300	-3,600	石川	コシヒカリ	10,400	12,350	-1,950
秋田	あきたこまち	9,000	12,300	-3,300	福井	ハナエチゼン	9,000	10,500	-1,500
山形	はえぬき	9,000	12,300	-3,300	三重	コシヒカリ(一般)	10,000	12,100	-2,100
福島	コシヒカリ(会津)	10,000	12,400	-2,400	滋賀	コシヒカリ	10,000	12,000	-2,000
福島	コシヒカリ(中通り)	9,400	12,000	-2,600	鳥取	コシヒカリ	10,500	12,500	-2,000
茨城	コシヒカリ	10,000	12,000	-2,000	島根	コシヒカリ	10,700	12,800	-2,100
栃木	コシヒカリ	10,000	12,100	-2,100	山口	コシヒカリ	10,020	12,000	-1,980
埼玉	コシヒカリ	9,500	12,000	-2,500	香川	コシヒカリ	9,900	12,000	-2,100
千葉	コシヒカリ	10,000	12,000	-2,000	福岡	夢つくし	10,800	12,600	-1,800
長野	コシヒカリ	10,360	12,160	-1,800	熊本	ヒノヒカリ	9,540	12,300	-2,760

注1: 業界紙等の情報を基に農林水産省で取りまとめたものである。

2: 概算金はあくまで内金であり、最終的に販売価格が確定した段階で精算払が行われるものであることに注意が必要。また、販売状況を見ながら概算金の追加払を行うところもある。

② 全集連系統の22年産の概算金

(単位: 円/60kg、1等・包装込み)

産地銘柄		22年産概算金 (当初)①	21年産概算金 (当初)②	前年産との差額 ①-②	産地銘柄		22年産概算金 (当初)①	21年産概算金 (当初)②	前年産との差額 ①-②
北海道	きらら397	10,000	11,000	-1,000	埼玉	コシヒカリ	9,500	12,000	-2,500
青森	つがるロマン	8,500	11,400	-2,900	千葉	コシヒカリ	10,000	12,500	-2,500
岩手	ひとめぼれ	8,700	12,300	-3,600	長野	コシヒカリ	10,360	12,160	-1,800
宮城	ひとめぼれ	8,700	12,300	-3,600	新潟	コシヒカリ(一般)	12,300	13,700	-1,400
秋田	あきたこまち	9,000	12,300	-3,300	新潟	コシヒカリ(魚沼)	16,500	18,700	-2,200
山形	はえぬき	9,000	12,300	-3,300	滋賀	コシヒカリ	10,000	12,000	-2,000
福島	コシヒカリ(会津)	10,000	12,400	-2,400	島根	コシヒカリ	10,700	12,800	-2,100
福島	コシヒカリ(中通り)	9,400	12,000	-2,600	福岡	夢つくし	10,800	12,600	-1,800
茨城	コシヒカリ	10,000	12,000	-2,000	熊本	ヒノヒカリ	9,540	12,300	-2,760
栃木	コシヒカリ	10,000	12,100	-2,100					

注1: 業界紙等の情報を基に農林水産省で取りまとめたものである。

2: 概算金はあくまで内金であり、最終的に販売価格が確定した段階で精算払が行われるものであることに注意が必要。また、販売状況を見ながら概算金の追加払を行うところもある。

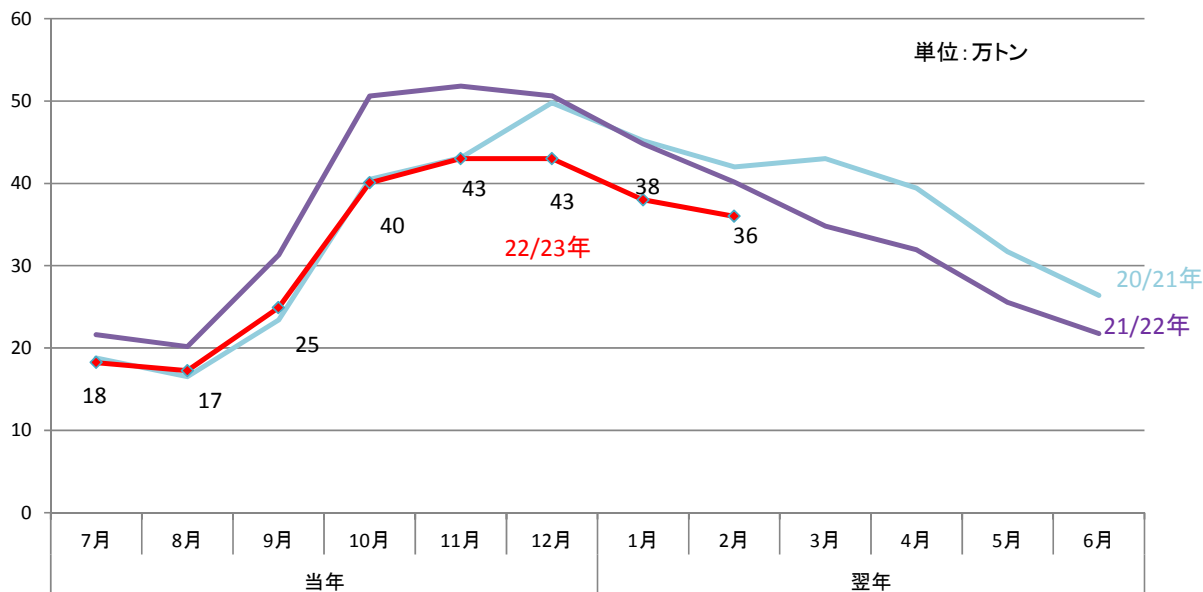
(5) (株) 加工用米取引センターの取引結果

成約実績なし。(4月27日現在)

資料: (株)加工用米取引センターHP

2. 卸売段階の動向

(1) 民間在庫（販売段階）の推移



(単位: 万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26	35
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22	35
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5	+0
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36					
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4					

資料: 農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(~20年7月)

農林水産省「米穀の取引に関する報告」(20年8月~)

注1: 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2: 米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。

3: 期間については、22/23年であれば、22年7月~23年6月である。

4: 22/23年7月以降の値は、速報値である。

(2) 業者間取引の状況

① 随時取引の結果(日本コメ市場)

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg)

年産・産地銘柄	10月上旬	10月下旬	11月上旬	11月下旬	12月上旬	12月下旬	1月上旬	1月下旬
22年産 北海道きらら397	—	—	—	—	—	—	—	—
22年産 青森つがるロマン	—	10,630	—	—	—	—	—	—
22年産 宮城ひとめぼれ	11,171	10,985	10,973	11,132	—	—	—	—
22年産 秋田あきたこまち	11,595	11,801	12,053	11,979	11,908	—	12,155	12,667
22年産 福島コシヒカリ(中通り)	11,825	11,932	12,304	12,611	12,782	—	—	13,930
22年産 茨城コシヒカリ	11,801	12,020	—	12,193	—	12,587	—	—
22年産 栃木コシヒカリ	11,734	11,837	12,058	12,136	12,323	12,712	12,900	13,309
22年産 新潟コシヒカリ	—	14,380	14,491	14,755	—	—	—	—

年産・産地銘柄	2月上旬	2月下旬	3月上旬	3月下旬	4月上旬
22年産 北海道きらら397	—	—	—	—	11,594
22年産 青森つがるロマン	—	—	—	—	—
22年産 宮城ひとめぼれ	—	—	—	—	—
22年産 秋田あきたこまち	12,493	12,457	—	12,902	14,721
22年産 福島コシヒカリ(中通り)	14,194	—	14,085	14,446	14,440
22年産 茨城コシヒカリ	—	13,217	13,159	—	—
22年産 栃木コシヒカリ	—	13,014	13,220	—	—
22年産 新潟コシヒカリ	—	—	—	—	—

出典：日本コメ市場株式会社HP

注1：随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。

2：上記価格は、日本コメ市場(株)の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。

3：上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。

4：上記価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

② 取引会の結果(日本コメ市場・クリスタルライス)

(主たる銘柄の成約状況)

(単位：円/俵、トン)

年産・産地銘柄	第4回 9月29日		第5回 10月20日		第6回 12月2日		第7回 1月13日		第8回 3月2日	
	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)
22年産 宮城ひとめぼれ	11,408	(34)	—	—	—	—	—	—	—	—
22年産 秋田あきたこまち	11,658	(94)	11,816	(164)	12,019	(96)	12,281	(140)	12,598	(177)
22年産 山形はえぬぎ	10,886	—	10,558	(108)	10,934	(38)	10,950	(48)	11,226	(25)
22年産 福島ひとめぼれ	10,614	(57)	10,665	(68)	11,180	(77)	11,467	(36)	11,806	(47)
22年産 福島コシヒカリ(中通り)	—	—	—	—	12,990	—	13,980	(60)	14,014	(42)
22年産 福島コシヒカリ(浜通り)	—	—	—	—	12,550	(22)	—	—	—	—
22年産 茨城コシヒカリ	—	—	—	—	—	—	—	—	13,235	(55)
22年産 栃木コシヒカリ	11,700	(60)	11,830	(60)	12,100	—	12,966	(73)	—	—
22年産 新潟コシヒカリ(一般)	14,520	(48)	14,230	(107)	15,400	(24)	—	—	—	—
成約米穀の平均価格(加重平均)	12,163	(767)	11,376	(1,164)	11,426	(970)	12,756	(1,357)	12,804	(1,077)

出典：日本コメ市場株式会社のHP

注1：取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。

2：価格は、1等、包装代(紙袋)含む関東着基準であり、取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。

3：「—」は、同社のホームページにおいて未掲載を示す。

3. 小売・消費段階の動向

(1) 小売価格・消費者物価の推移

① 消費者物価指数の推移

	食料	穀類	米類		パン	めん類
				うるち米		
平成17年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
平成18年	100.5	98.3	96.9	97.0	99.9	98.8
平成19年	100.8	97.8	95.2	95.4	100.6	98.3
平成20年	103.4	104.1	94.0	94.2	113.3	109.8
平成21年	103.6	104.9	94.4	94.4	113.6	111.7
平成22年1月	102.9	102.4	92.7	92.7	110.5	109.7
2月	102.5	102.4	92.7	92.7	110.0	110.0
3月	102.6	102.4	92.6	92.6	109.5	110.1
4月	103.5	102.3	92.6	92.6	109.4	110.1
5月	103.4	102.1	92.5	92.4	108.9	110.2
6月	103.7	102.1	92.2	92.2	109.3	109.6
7月	102.6	101.7	91.7	91.6	108.8	109.9
8月	103.5	101.6	91.4	91.4	109.1	109.4
9月	104.6	101.5	91.1	91.1	109.0	109.5
10月	104.5	100.4	89.2	89.0	108.7	109.2
11月	103.6	99.9	87.8	87.7	108.9	109.0
12月	102.6	99.0	86.8	86.7	108.6	108.4
平成23年1月	103.1	98.9	86.4	86.3	108.5	108.9
2月	103.0	98.8	86.1	86.0	108.2	108.9

資料：総務省「消費者物価指数」

注1：平成17年を100として指数化している。

2：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。

3：穀類は、米類(うるち米、もち米)、パン、めん類、他の穀類からなる。

4：平成17年から平成21年のデータは年平均、平成22年以降は月次データを用いている。

② 小売物価統計の推移

(単位：円/包装・消費税込み5kg)

	うるち米		
	単一原料米 (コシヒカリ)	単一原料米 (コシヒカリ以外)	複数原料米
平成17年	2,804	2,375	2,040
平成18年	2,744	2,341	1,996
平成19年	2,670	2,288	1,950
平成20年	2,610	2,270	1,832
平成21年	2,531	2,201	1,812
平成22年1月	2,479	2,166	1,775
2月	2,522	2,178	1,763
3月	2,503	2,173	1,763
4月	2,159	2,167	1,770
5月	2,508	2,185	1,763
6月	2,506	2,183	1,773
7月	2,465	2,141	1,758
8月	2,463	2,130	1,758
9月	2,478	2,167	1,704
10月	2,409	2,082	1,684
11月	2,350	2,037	1,682
12月	2,347	2,027	1,669
平成23年1月	2,338	2,038	1,662
2月	2,382	2,020	1,683
3月	2,347	2,006	1,636

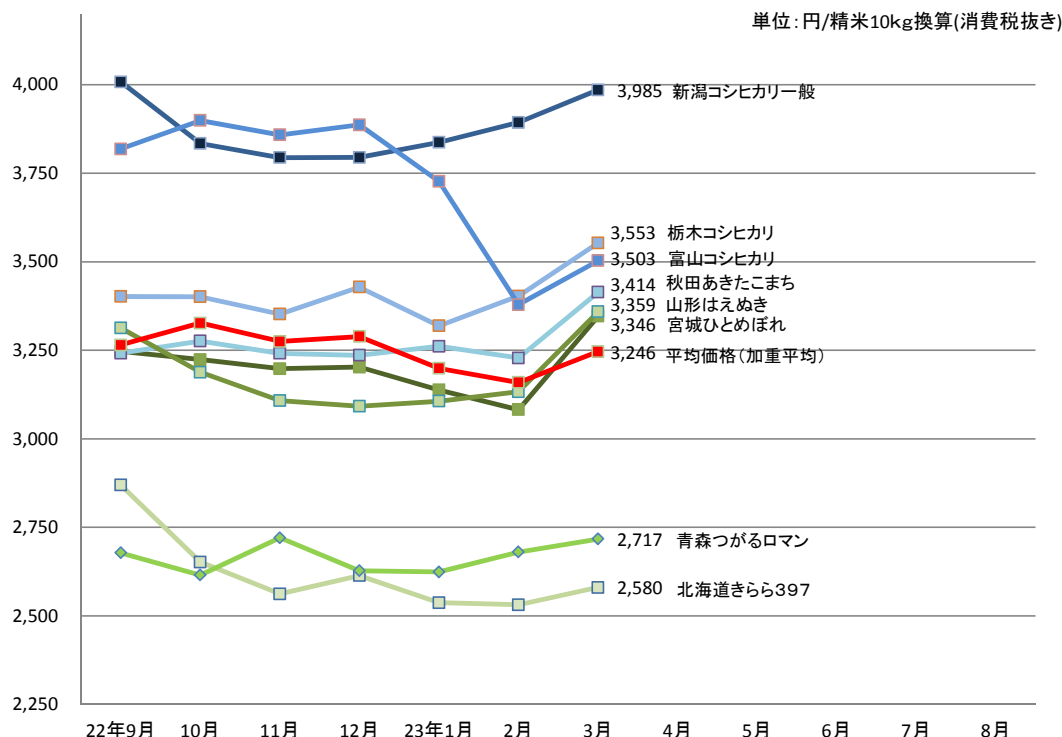
資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

3：精米ベースである。

③ 小売価格の推移（POSデータ）



資料：株式会社KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注1：株式会社KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約800店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

注2：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

注3：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

注4：平均価格（加重平均）は、POSデータで把握できる全ての精米の小売価格について加重平均を行った価格である。

(2) 購入数量の推移(家計調査)

(単位：グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年1月	4,920	98.0%	3,673	104.3%	2,966	103.9%
2月	5,600	100.2%	3,484	99.7%	2,778	103.3%
3月	6,420	101.3%	4,119	102.2%	3,135	100.4%
4月	6,400	96.7%	3,989	101.1%	2,937	103.0%
5月	6,330	101.8%	3,954	96.6%	3,000	94.2%
6月	6,430	106.1%	3,790	99.1%	3,038	98.8%
7月	6,140	95.8%	3,850	100.1%	3,503	101.3%
8月	6,240	94.4%	3,612	96.2%	3,268	104.6%
9月	8,930	91.6%	3,663	94.4%	2,534	100.2%
10月	10,310	91.7%	3,979	101.0%	2,914	101.2%
11月	7,920	98.5%	3,700	99.0%	3,020	100.9%
12月	7,500	104.9%	3,680	103.1%	3,906	104.4%
平成23年1月	4,790	97.4%	3,656	99.5%	2,875	96.9%
2月	5,110	91.3%	3,573	102.6%	2,763	99.5%

資料：総務省「家計調査」

注1：二人以上の世帯の数値である。

注2：平成20年及び平成21年については、年間の購入数量を示す。

注3：精米ベースである。

4. 生産段階の動向

(1) 国産米の作況・収穫量（平成22年産の水稻の収穫量）

年度	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	(参考)			作況指数
				主食用 作付面積 ha	収 穫 量 (主食用) t	10a当たり 平年収量 kg	
18	1 684 000	507	8 546 000	…	…	529	96
19	1 669 000	522	8 705 000	…	…	529	99
20	1 624 000	543	8 815 000	1 596 000	8 658 000	530	102
21	1 621 000	522	8 466 000	1 592 000	8 309 000	530	98
22	1 625 000	522	8 478 000	1 580 000	8 239 000	530	98

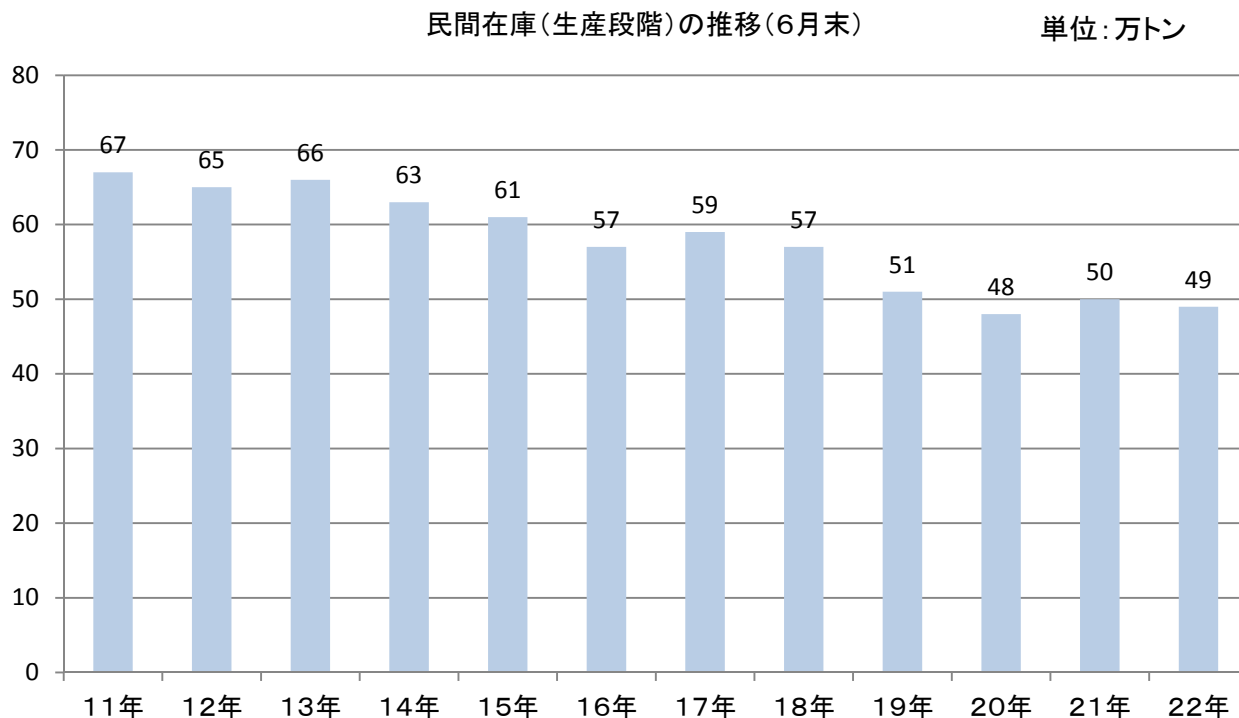
出典：農林水産省「平成22年産水陸稲の収穫量」

注1：作付面積(子実用)とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

注2：主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積である。

注3：「…」は、事実不詳又は調査を欠くものであることを示す。

(2) 民間在庫（生産段階）の推移



資料：農林水産省「生産者の米穀在庫等調査」

注：「生産者の米穀現在高等調査」(平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」)を基に算出(精米在庫量を除く玄米在庫量)。

(3) 水稲うるち玄米（22年産米）の検査結果

水稲うるち玄米の検査数量及び等級別数量の推移

(単位:トン、%)

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
17	5,047,547	3,788,571	1,000,515	168,455	90,006	75.1	19.8	3.3	1.8
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22※	4,505,089	2,767,416	1,488,495	146,178	102,999	61.4	33.0	3.2	2.3

資料：農林水産省とりまとめ

注1：「一等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、一等に格付けされた割合である。

2：22年産については、平成23年3月31日現在

(4) 加工用米及び新規需要米の取組状況

① 加工用米の集荷実績数量

単位:トン

	うるち米	もち米	合計
平成16年産	117,837	4,404	122,241
平成17年産	123,996	4,738	128,734
平成18年産	140,596	7,996	148,592
平成19年産	152,145	10,659	162,804
平成20年産	138,895	10,154	149,048
平成21年産	134,389	6,779	141,168
(参考) 平成22年産	194,805	23,519	218,324

資料：農林水産省「加工用米集荷実績数量」

注1：平成22年産においては、加工用米取組計画の認定を受けた数量である。

2：四捨五入の関係で個々の数字の積み上げと合計が一致しない場合がある。

② 新規需要米の用途別認定状況

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産	
	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397
WCS用稲(※) (稲発酵粗飼料用稲)	—	9,089	—	10,203	—	15,939
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388
その他(※) (わら専用稲、青刈り用稲等)	982	1,330	1,108	956	694	508
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」

注1：WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため認定数量はなし。

注2：四捨五入の関係で個々の数字の積み上げと合計が一致しない場合がある。

5. 備蓄米及びMA米の動向

(1) 国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量

① 国内産備蓄米の政府買入数量

平成22年産国内産米穀の政府買入に係る一般競争入札の結果

(単位：トン)

買入予定数量	落札数量			合計 (第1回から第3回)
	第1回 (平成23年2月4日実施)	第2回 (平成23年2月23日実施)	第3回 (平成23年3月8日実施)	
180,000	0	34,520	66,571	101,091

資料：農林水産省「平成22年産国内産米穀の政府買入に係る一般競争入札の結果」

平成23年産国内産米穀の政府買入に係る一般競争入札の結果

(単位：トン)

産地等	第1回 (平成23年2月25日実施)	
	提示数量	落札数量
一般入札枠	138,000	24,172
優先入札枠	60,800	29,230
北海道	7,000	7,000
岩手県	6,700	1,356
宮城県	5,900	5,700
秋田県	11,300	11,274
山形県	3,900	3,900
東京都	100	—
富山県	6,200	—
滋賀県	1,200	—
広島県	2,100	—
山口県	5,100	—
香川県	1,300	0
愛媛県	1,000	—
福岡県	1,300	—
佐賀県	5,700	—
熊本県	500	—
大分県	300	—
宮崎県	500	0
鹿児島県	700	—

資料：農林水産省「平成23年産国内産米穀の政府買入に係る一般競争入札の結果」

② 国内産備蓄米の売渡数量

最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況

(単位:千トン)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	—	—	—	—	3

資料：農林水産省「最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況」

注1：期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。

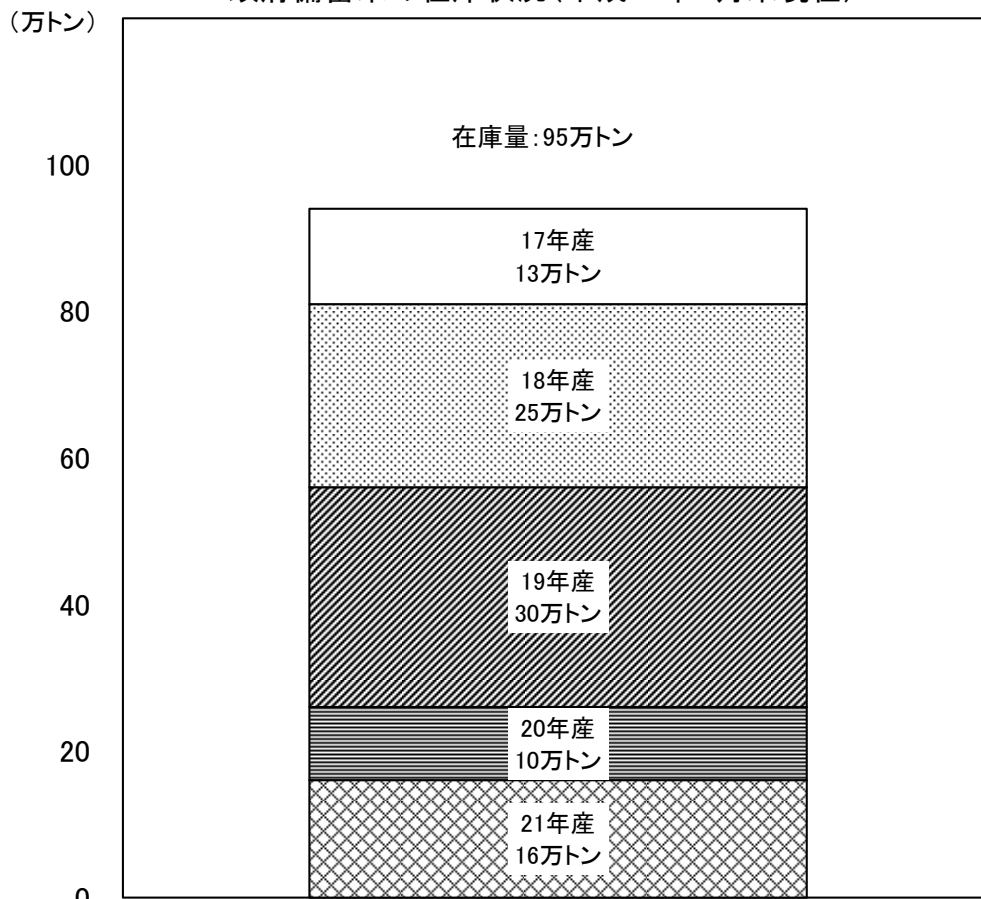
2：販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。

3：19/20年の11月・12月については緊急対策による販売停止以前に契約された分の引取数量であり、1～5月については矯正施設向けに販売し、引き取られた数量である。

4：平成23年1月をもって、政府所有国内産米穀（主食用）の販売入札（2月引取分まで）を終了している。

③ 国内産備蓄米の在庫数量

政府備蓄米の在庫状況(平成23年2月末現在)



注: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(2) MA米（一般・SBS）の動向

① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：万玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10
その他	1	1	2	2	2	2	1	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77
（うち一般輸入）	42	49	54	55	59	63	66	71
（うちSBS輸入）※	1	2	6	12	12	12	10	5

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
米国	36	36	36	36	36	43	36	36
タイ	15	19	19	18	25	27	33	35
中国	11	10	9	8	8	7	7	2
オーストラリア	9	2	2	5	-	-	-	4
その他	5	10	11	10	1	0	1	0
合計	76	77	77	77	70	77	77	77
（うち一般輸入）	65	66	66	66	59	66	66	72
（うちSBS輸入）※	10	9	10	10	10	10	10	4

資料：農林水産省「ミニマム・アクセス米をめぐる状況」

※SBS輸入数量の単位は万実トン。

注1：各年度の輸入契約数量の推移。

注2：実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

② 一般輸入米(加工原材料用)の販売状況(平成22年度)

(単位:トン)

	うるち	もち
4月～6月分 (平成22年3月26日実施分)	18,598	—
5月分 (平成22年4月21日実施分)	3,744	684
6月分 (平成22年5月20日実施分)	3,656	764
7月分 (平成22年6月22日実施分)	4,442	431
7月～9月分 (平成22年6月22日実施分)	26,672	1,110
8月分 (平成22年7月21日実施分)	2,690	349
9月分 (平成22年8月19日実施分)	2,999	765
10月分 (平成22年9月16日、28日実施分)	774	180
10月～12月分 (平成22年9月16日、28日実施分)	20,676	1,680

	うるち	もち
11月分 (平成22年10月22日、28日実施分)	1,521	190
12月分 (平成22年11月11日、19日実施分)	1,747	274
1月分 (平成22年12月14日、17日及び22日実施分)	1,150	185
1月～3月分 (平成22年12月14日、17日及び22日実施分)	20,084	1,728
2月分 (平成23年1月18日、24日実施分)	1,070	227
3月分 (平成23年2月15日、22日実施分)	1,519	246
合計	111,342	8,813
	120,155	

資料:農林水産省「加工用原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の定例販売の結果について」、「加工用原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

③ SBS米の販売状況(平成22年度)

(単位:トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回(平成22年9月17日)	一般米	—	—	40	—	—	—	80	—	120
	砕精米	1,028	216	1,040	—	216	—	—	—	2,500
第2回(平成22年10月20日)	一般米	36	504	256	—	120	—	—	—	916
	砕精米	1,138	208	1,546	—	108	—	—	—	3,000
第3回(平成22年11月5日)	一般米	—	324	678	—	196	—	302	—	1,500
	砕精米	2,206	—	1,100	—	—	—	—	—	3,306
第4回(平成22年11月30日)	一般米	40	162	54	—	360	—	—	—	616
	砕精米	1,322	—	1,380	—	108	—	—	—	2,810
第5回(平成22年12月17日)	一般米	146	108	112	—	100	—	36	—	502
	砕精米	3,466	—	1,534	—	—	—	—	—	5,000
第6回(平成23年1月12日)	一般米	566	—	140	60	340	—	—	—	1,106
	砕精米	1,936	108	800	—	—	—	—	—	2,844
第7回(平成23年2月2日)	一般米	352	502	240	60	820	—	—	—	1,974
	砕精米	1,310	—	320	—	100	—	—	—	1,730
第8回(平成23年2月16日)	一般米	740	404	40	—	560	—	—	—	1,744
	砕精米	1,452	—	300	—	—	—	—	—	1,752
第9回(平成23年3月2日)	一般米	1,024	224	320	—	440	—	120	—	2,128
	砕精米	2,580	108	990	—	—	—	—	—	3,678
合計	一般米	2,904	2,228	1,880	120	2,936	0	538	0	10,606
	砕精米	16,438	640	9,010	0	532	0	0	0	26,620

資料:農林水産省「平成22年度輸入米に係るSBSの結果の概要」